

# 踊る線条

寺田寅彦

青空文庫



フィッシンガー作「踊る線条」と題するよほど変わった映画の試写をするからぜひ見に来ないかとI氏から勧められるままに多少の好奇心に促されて見に行った。プログラムを見ると、第五番「アメリカのフォクストロット」。第八番、デューカーの「魔術師の徒弟」。第九番、ブラームス「ウングリシエ・タンツ」というふうに楽曲の名前が並べてあるだけで、いったいどんなものを見せられるか全く見当がつかない。

さて、映写が始まって音楽が始まると同時に、暗いスクリーンの上にいろいろの形をした光の斑はんでん点や線条が順次に現われて、それがいろいろ入り乱れた運動をするのであるが、全く初めての

経験であるからただ一度見ただけでは到底はつきりした記憶などは残りようがない。しかし都合六編だけ通覧したあとでの印象は、実に思いのほかにおもしろいものであったということである。

たぶんは退屈で、しいて理屈をつけて見ているうちに頭が痛くなるようなものではないかと思っていた予想に反して、ただぼんやり見ているだけでなんとなく気持ちのいい、ともかくも充分楽しめるものであるということを見出して少々驚いたのであった。

残念ながら大部分は肝心の楽曲をよく知らないから困るのであるが、ただ一つモツアルトの「二長調メヌエツト」だけは曲の構造をよく知っている上に、光像の踊りも簡単であるから、比較的らくに光像の進行を追跡することができたようである。第一のテー

マは楽譜の形からも暗示されるように、すいせい彗星のようなこうはん光斑が  
かわるがわるコンマのような軌跡を描いては消える。トリラーの  
箇所は数条の波線が平行して流れる。

第二のテーマでは鉛直な直線の断片が自身に並行にS字形の軌  
跡を描いて動く。トリオの部分は概して水平な短い直線の断片が  
現われてそれがちょうど編隊飛行の飛行機が風に吹き散らされて  
でもいるような運動をする。これを見ながら同時にこの曲を聞い  
ているといくらかこの映画作者の気持ちを理解することができる  
ような気がする。

その他の曲にはなかなか複雑な仕組みのものもあつたが、たと  
えば大小の弦楽器が多くは大小の曲線の曲線的運動で現わされ真し

んちゅうかんがつき

鑷管楽器が短い直線の自身に直角な衝動的運動で現わされたり、太鼓の音が画面をいつさんに駆け抜ける扇形の放射線で現わされたりする場合が多いようである。トランペットやトロンボンのほげしい爆音の林立が斜めに交互する槍やりの行列のような光線で示されるところもあつたようである。

なんだかちつともわからないようで、しかしなんだか妙におもしろいものである。これと非常によく似たものが他にどこかにあるようだと思つたら、それはいわゆるレヴューである。レヴューでは人間の集団で作つた斑はんでん点や線条が舞台の上で離合集散いろいろの運動をする。あの斑点や線条の運動はなんの意味だかちつともわからない。しかしなんだかおもしろい。このレヴューから

あらゆる不純なものをことごとく取り去ってしまったもの、ちぐはぐな踊り子の個性のしみを抜き、だらしない安っぽい衣装や道具立てのじじむささを洗い取ったあとに残る純粹の「線の踊り」だけを見せるとすれば、それは結局このフィッティングの映画のようなものになるであろうと思われた。

ずっと前に菊五郎きくごろうと三津五郎みつごろうの「棒縛り」を見ておもしろいと思ったことがあった。あれのおもしろさも煎せんじつめて考えてみると、やはり長い直線の大きな曲線的運動と、短い線の短い直線的運動の対立の交錯によって織りだされた「線の踊り」のおもしろみであったような気がする。

舞踊というものをその幾何学的運動学的要素に一度解きほごし

て、それから再び踊りというものを構成するとすればその第一歩はおそらくこの映画のようなものになりそうである。そういう意味でわが国の舞踊家ならびに舞踊研究家にとつてもこの映画は必ず一見の価値があるであろうと思われる。一方ではまた純粹音楽というものの「空間化」の一つの試みとして音楽家ならびに音楽研究家にとつても多少の興味がありそうである。これは決して音楽を冒<sup>ぼう</sup>瀆<sup>とく</sup>するものではなくて、音楽の領域に新しきディメンジョンを付加することの可能性を暗示するものではないかと思われる。これが、別に頼まれもせぬ自分がこの変わった映画の<sup>ちようち</sup>提<sup>てい</sup>燈<sup>ん</sup>をもつて下手<sup>へた</sup>な踊りを踊るゆえんである。

(昭和九年一月、東京朝日新聞)





# 青空文庫情報

底本：「寺田寅彦隨筆集 第四卷」小宮豊隆編、岩波文庫、岩波書店

1948（昭和23）年5月15日第1刷発行

1963（昭和38）年5月16日第20刷改版発行

1997（平成9）年6月13日第65刷発行

入力：(株)モモ

校正：かとうかおり

2003年7月6日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 踊る線条

寺田寅彦

2020年 7月13日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>